新年度予算のあらまし

予算きまる

事業予算は補正で肉づけ

ことしのまちづくり予算がきまりました。

ことしの予算総額は、三十六億四百十三万円で、前年度とくらべ二七・七パーセントの増ですが、四月の市長選挙をひかえての「骨格予算」を編成しました。

物価の高騰、インフレ下の不況といった市財政をとりまく経済情勢のきびしい中での予算編成ですが、市民本位の行政を基本に、明るく、住みよいまちづくりを推し進めていきます。

ことしの予算のうちわけは、つぎのとおりです。

なお、事業などの施策予算は、選挙後の補正予算で肉づけされます。

暮らしの環境を整備

土木費に二億二千万円

生活関連公共施設の整備では、二億二千六百十六万円を組みました。

ことしは骨格予算のためいままでの継続事業や急がれている事業分しか組まれていません。

道路整備では、三千二百五十二万円で道路橋りょうの拡幅、舗装改良、維持補修などを進めるほか、私道舗装工事補助として、百五十万円を組みました。

河川、排水路の整備では四千百七十万円で、第五向陽小学校、はりこ池周辺、市庁舎北側の公有地（寺戸町南垣内）の排水路改修や市町村管理河川改修に取り組みます。

また、交通安全対策事業に千三百二十九万円を組み鶏冠井町の番田地下道照明工事、歩道新設、ガードレールの設置を進めるほか、街路灯の新設もあわせて、歩行者の安全の確保に努めます。

まちづくり事業としては京都府の桂川右岸流域下水道事業に伴う市負担分を、とりあえず五百万円組みました。また、昭和四十六年度から継続事業として進めている寺戸川都市下水路事業に、二千六百五十八万円を組みました。

毎年増加する児童生徒。これに対処し、教育の場の環境づくりとして、五億千七百七十三万円を組みました。

ことしは、第四向陽小学校の増築費（四十九年度で工事）一億三千七百十二万円を、また第五向陽小学校のプールを山城学校建設公社で建替施行します。また

第5小にプールを建設

教育費に5億1,773万円

各小学校の教材備品として千九百七十万円を組み、教育内容の充実をはかります。

私立幼稚園の幼児教育では、七百九十八万円を組み保護者助成を進めます。

組合立中学校では、市負担分八千五百万円を組みました。

そのほか、児童の通学安全を確保するため、市独自の交通指導員制度を発足、登校時には、阪急新田上手踏切と国鉄東小路地下道西入口に立番指導員、寺戸町大牧地内に指導員と立番施設を設け、下校時の指導にあたります。

社会教育・体育では、公民館図書の蔵書充実をはかるため、図書購入費百一万円を組むとともに、市民のスポーツ教室の育成に努めます。

また、市民の文化活動の拠点である市民会館の運営費に三千九百九十五万円を組み、市民文化の向上をはかります。

融資制度の融資枠を拡大

商工費　二千万円
農林水産費　四千万円

生産緑地保全要綱に基づいた生産地奨励金四百七十万円を組んだほか、ため池改修事業二百五十万円、小規模かんがい排水事業五百二十万円を組み、事業を進めます。

商工費は二千四百三十八万円を組みました。

インフレ下の不況という中小企業をとりまく経営状態には、きびしいものがあります。これに対処して、市独自の中小企業振興融資制度の融資枠を六千三百万円から七千万円に拡大し、商工振興の助成に努めます。

農業振興を進めるため、三千九百九十一万円を組み二十万円を組み、事業を進めます。

三本の柱を中心に

三〇・八パーセントの増（一般会計）

一般会計では、二十八億六千百十万円を組みました。前年度当初予算とくらべ、六億七千三百五十万円三〇・八パーセントの増となりました。

ことしは、前年度に引き続き、総需要抑制策がとられ、また市長改選期をひかえていますので、「骨格予算」となりました。そのうえ、事務事業に必要な経費、いままでの継続的な事業や、どうしてもしなくてはならない事業にかかる経費だけを組んでいます。

このように基本的な考え方をふまえて組まれた予算ですが、(1)市民の暮らしの周辺の環境整備、(2)市民の福祉と健康を守る、(3)教育施設の整備充実の三本の柱を中心に編成しています。

歳出の構成比をみてみますと、民生費が二三・一パーセントとトップを占め、ついで教育費一八・一パーセント、総務費一七・〇パーセント、衛生費一二・七パーセント、公債費一〇・七パーセント、土木費七・九パーセント、消防費四・七パーセントの順になっています。

また、歳出の性質別内訳では、義務的経費が六二パーセントを占め、中でも人件費四三・五パーセント、扶助費七・八パーセント、公債費一〇・七パーセント、物件費一三パーセント、普通建設事業費一二・七パーセント、補助費等一〇・四パーセント、その他一・九パーセントとなりました。

義務的経費がトップを占めたのは、政策的事業をひかえたためです。

国保財政も圧迫

なお苦しい水道事業

国民健康保険事業では、三億七千三百八十万円を組みました。前年度当初予算とくらべ、八千二百九十三万円、二八・五パーセントの増となりました。

年々の受診率の向上、老人医療の無料化、高額療養費支給制度、診療報酬の引上げなど、国保財政を圧迫する要因となっています。

ことしも、前年度と同様楽観を許さない状況ですが国保財政の健全化を進め、国保財政の制度上の問題解消を、国や各関係行政庁に対し、強く働きかけていきます。

水道事業の経営面では、昨年十二月(五期分)から水道料金の改定と給水量の増加により前年度とくらべ七・六パーセントの増収を見込んだ事業収益三億千二百五十二万円を組みました。

事業費用では、物価の高騰、電気料金の上昇など、二・二パーセントの増、三億三百七百万円を組みました。

このため、ことしは九百四十四万円の剰余金となりますが、前年度からの繰越欠損金が六千二百七十三万円と予想され、差引五千三百二十七万円の欠損金が翌年度へ繰越すことになります。

水道経営は、なお苦しい現状です。

事業では、水中ポンプ一台、塩素滅菌機一台、第二浄水場ろ過池トラフなどの取替費などを組みました。

前年度と比べ二六パーセントの増

公債費に三億円

公債費では、三億六百九十六万円を組みました。前年度当初予算とくらべ、六千四百十万円、二六・四パーセントの増となりました。

昭和四十九年度末の市債現在高は、二十三億九千百二十九万円の見込みですがその償還元金一億二千三百三十一万円と償還利子一億八千三十五万円、一時借入金利子三百三十万円がそのうちわけです。

住民サービスを向上

総務費に4億8,782万円

総務費では、四億八千七百八十二万円を組みました。

主なものとして、寺戸町南垣内地内（市役所北側用地）と物集女町中海道地内の用地の公有地財産購入費一億三十二万円のうち、五千五十九万円を組みました。

また、統一地方選挙や国勢調査費などのほか、住民サービスの向上を進める事務的費用を組んでいます。

消防車両に超短波無線を設置

消防費に一億三千万円

市民のいのちと暮らしを守る消防では、一億三千四百九十九万円を組みました。

前年度に引き続き、ねたきり老人などを対象とした家庭用火災報知器の取付けや町内会で共同購入される消火器の設置補助金制度のほか、消防車両に超短波無線電話の設置、消防ホースの整備をし、消火活動を強化するとともに、火災予防に努めます。

■　1日1円の掛金で，思いがけない交通災害に備えて，「交通災害共済」に加入しましょう。

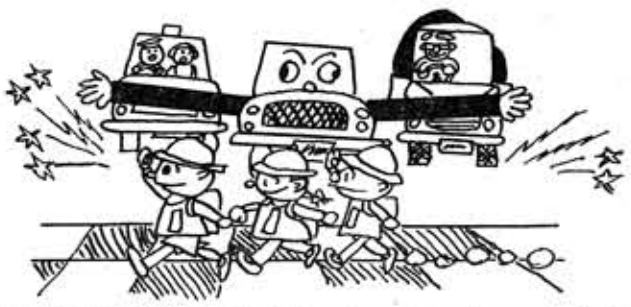
■　この制度は，交通事故による死亡，傷害に見舞金を支払うものです。

■　掛金　1人330円
（おとなもこどもも）

■　共済期間は1年間
（昭和50年4月1日～51年3月31日）

●申込みは……
保険年金課（1階）
電話 931-1111番

わたしもあなたも
交通災害共済に加入しよう



交通災害共済に加入を